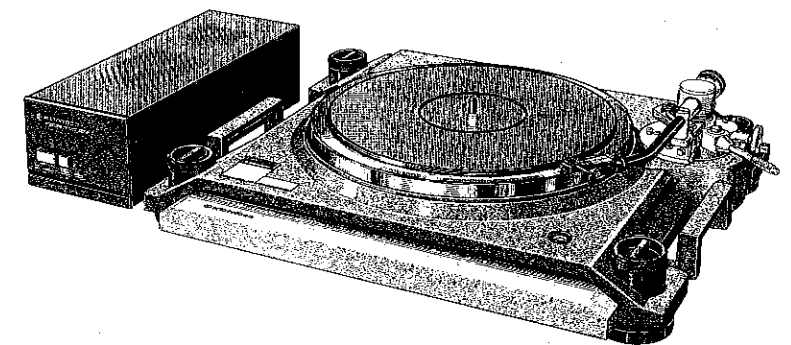


クォーツ PLL

ダイレクト ドライブ ディスク プレーヤー

L-07D

取扱説明書



KENWOOD

■アフターサービスのお問い合わせは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。
その他商品に関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。

電話 (03) 477-5515

■トリオ株式会社/トリオ商事株式会社
本 社 東京都渋谷区渋谷 2 の17の5 シオノギ渋谷ビル 〒150

電話 (03) 477-5511

© 1981 • 6 PRINTED IN JAPAN

B50-2364-00(T)

 KENWOOD

L-07D

お買いあげいただき、ありがとうございます。
ご使用に際し、本機の性能を十分に発揮させるため、
本説明書を最後までお読みいただき、正しい使い方に
より末永くご愛用ください。

なお、本製品は厳重な品質管理のもとに生産されて
おりますが、万一運搬中の事故などに伴い破損等の不
具合がありましたら、お早めに購入店、または最寄りの
トリオ商事各営業所、サービス・センターへお申し
つけください。

アフターサービスについて

1. 保証書 この商品の保証書は別途添付してあります。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
 2. 保証期間 お買上げの日より1年間です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が無料修理いたします。
 3. 保証期間経過後の修理についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様の要望により有料修理いたします。
 4. 本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年間です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
 5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。
- ※ ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために是非保管し、ご利用ください。

目次	
特長	2
各部の名称	4
組み立てる前に	5
組み立て順序	6
トーンアーム関係の調整	8
針圧調整のしかた	10
レコード演奏のしかた	12
取扱上のご注意	13
サブアームの取り付けについて	13
保守について	14
定 格	15

特 長

百年余の歴史をもつレコード再生プレーヤーの究極を目標として開発されたのがこの**L-07D**です。この究極の目標とは、レコード盤に刻まれた音楽信号を100%確実かつ正確に電気信号に変換する——いいかえれば、カッティングされた信号と再生された信号との間に全く差のない**理想変換**を達成することです。

この“理想変換”を実現させるために、**L-07D**には種々の新技術が開発され、導入されています。しかしこれら個々の技術は単独で効果を表わすものではなく、トータルのシステムとして初めて完成し、“理想変換”に一步近づいたものとなります。**L-07D**は、レコードのすばらしさと可能性の大きさを再認識していただくに充分な再生プレーヤーであると自負しております。

L-07Dには、“理想変換”を達成するために大別して次の4つのオリジナル設計ポイントを持っております。

1. 高剛性防振
2. 3支点の明確化
3. 高トランジェント負荷特性
4. 忠実電気信号伝達

これら4つの設計ポイントは、プレーヤーを構成するフォノモーター部、トーンアーム部、キャビネットなどの各構成パーツにすべて生かされております。

高剛性防振を実現するメタルインサートの超重量複合キャビネット構造

本機のキャビネットは、低い重心、トーンアーム支点・フォノモーター支点の完璧な保持、外部から加わる振動に対する防振を達成するために、二層構造の上にメタルをインサートした複合キャビネット構造を採用しています。

上面キャビネットは、成型精度が高く、十分な剛性をもつ新ARCB材を、そしてその中にはアルミダイカストをインサートし、さらに下面キャビネットには剛性、防振性にすぐれた新素材のマホガニー・コンプライトと、それぞれが強い剛性をもつ素材を密着させ、トータルとしての剛性を上げ、完璧なまでの防振効果を得る異種材複合防振構造としています。

ダイナミック・コンペンセイテッド・モーターの採用

従来からのフォノモーター改善の最大ポイントは、コギングまたはトルクリップルと呼ばれる回転ムラをとり除くことでした。理論的にはトルクリップル“ゼロ”のモーターは存在しますが、工作精度や軸受部の受ける粘性抵抗により実際には存在しません。

L-07Dのダイナミック・コンペンセイテッド・モーターでは、従来定電圧で駆動していたモーターコイルを定電流駆動とし、コイルの逆起電力が無視でき、よ

り正確な起動が行えるなどの改善がなされています。

さらに本機のモーターでは、定格回転数の±3%時点にて制御方式を自動的に切り替えるダブルサーボカップリングを採用、定格回転数3%以上の起動時では速度制御動作で強力なトルクを得、3%以内の定常時には位相制御で大きなロックレンジ、位相ゲインを確保しています。また±3%内、外で回路カップリングをDC→ACと自動切り替えし、モーター駆動回路とモーターオフセットの影響をゼロにしています。

なお、慣性モーメントの絶対値が大きく変化する場合(弊社のツイン・ディスク・スタビライザーDS-20使用などの場合)には、ダイナミック・パラメーター(時定数)を切り替えることが可能です。

高トランジェント負荷特性の大慣性モーメント複合構造防振ターンテーブル

ターンテーブルシートも含め、1,025kg・cm²と、1tを超える大慣性モーメントを実現、針先からのトランジェント負荷変動が加わってもびくともしない回転エネルギーを得ています。さらにミクロン単位のレコード信号を正確に得るために、レコード盤下の機械インピーダンスの確保を図り、防振と高剛性の両特性をもつ複合防振ターンテーブルとしています。即ち、アルミダイカスト製のターンテーブル内部には4mmのジュラルミンを圧着し、ターンテーブル上面に精密加工を施し、さらに非磁性ステンレス製のターンテーブルシートを加えて異種材複合防振としています。

高剛性・無共振のボロンラミネートパイプトーンアーム

トーンアームのパイプは、アームレゾナンス周波数を高くする必要があるため、軽く剛性の高い材料を使用しなければなりません。本機では、航空機用超硬アルミニウムのパイプにカーボンファイバー、ボロンファイバーを複合した3層構造のトーンアームを採用、高剛性を得るとともに異種の素材の組み合わせにより共振を抑え、針先への悪影響を防いでいます。

また、ヘッドシェルにもカーボンとボロン7層の積層構造を採用し、軽量で高剛性を実現しています。

高精度・高剛性のピックアップループ(3支点の明確化)

レコード盤に刻まれた信号を、入力信号としてピックアップするターンテーブルの信号変換系——ピックアップループには、プレーヤーの全動作の中心となる**3つの支点**【ターンテーブル支点(センターシャフト)、トーンアーム支点(ピボット)、カンチレバー支点】があります。そしてこれらの**3つの支点**の位置精度がレ

コードプレーヤー性能のすべてを決定する、といっても過言ではありません。レコード盤の音溝に対して**3つの支点**が相対的に不動であることが**理想変換**の最大条件なのです。

L-07Dでは、センターシャフトに12φの硬質ステンレスを採用し、高精度構造により性能・音質の向上を図っています。また、重量級ターンテーブルを保持するためにマグネフロートを使用し、スラスト受け等の粘性抵抗を低減させ、モーターのカットオフ周波数を下げることが可能になりました。

トーンアームピボットはSK鋼、回転軸はステンレス鋼、ベアリングには振動に強い大口径ベアリングを使用し、支点部はなめらかに動き、他は高剛性で不動な構造となっています。

またカンチレバー支点は、この位置が変動することにより、音楽信号以外の信号成分を含んだり、変調されたりして、音質を損ねてしまいますので正確であることが必要です。

コレットチャック方式の強固なトーンアームベース

トーンアームベースには、BSBM材とステンレス材の削り出し加工のコレットチャック固定方式を採用、さらにヘリコイド高さ調整機構をもち、1回転0.1mmの超高精度の調整が可能で、全体で7mmの高さ調整ができます。また、トーンアームシャフトもBSBM材削り出しφ27.6mmという大口径とし、コレットチャックからの圧力を受けてもビクともしない剛性を確保しています。トーンアームベース、トーンアームシャフト関係のパーツだけでも3kgの重量をもつ、マス集中設計とし、アーム下の機械的外乱に強くなっています。

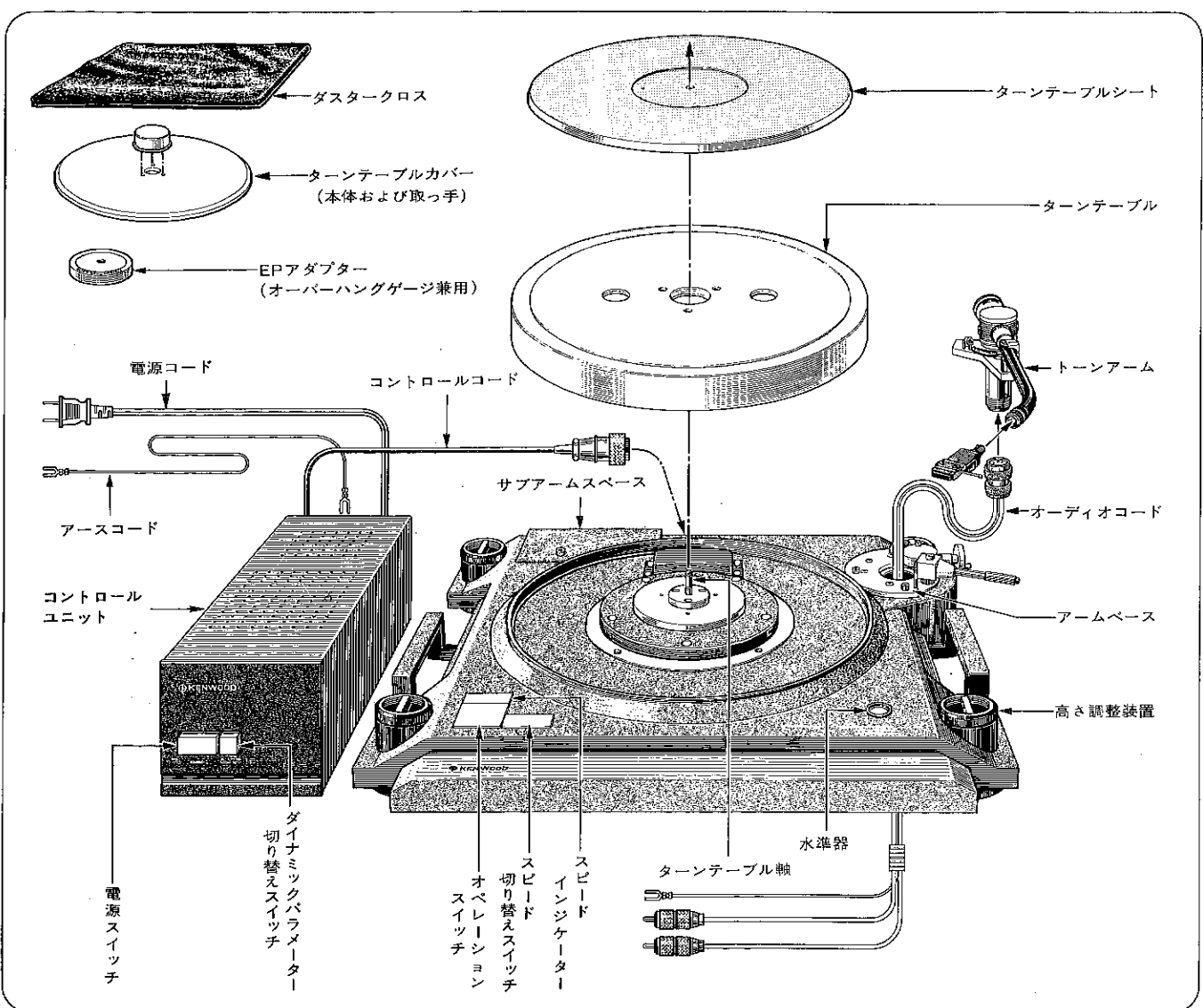
忠実に電気信号を伝達する優れた内線材

本機の電気信号伝達系は全ライン純銅リッツ線を基本とし、さらにペンタ構造、2芯シールド構造などオリジナルな構造を採用し最高の性能を確保しています。

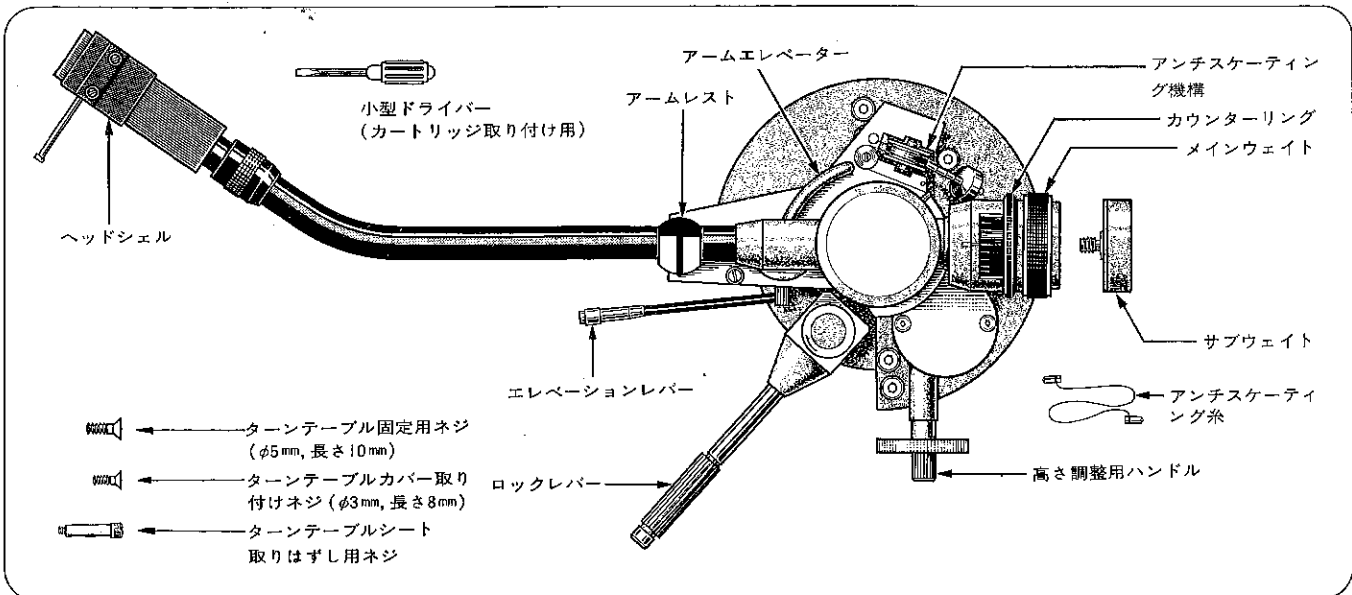
出力コードは⊕、⊖信号を対称に配置し、シールド側は完全なボディアースと成る2芯シールド線構造で、各導体には80μ168本のリッツ線を使用し、直流抵抗を極限まで減らした低容量コードです。またトーンアームの内線材には、50μ56本のペンタリッツ線を採用、ヘッドシェルの内線材にも、直流抵抗12mΩの絹巻きリッツ線が採用されています。

アーム、出力コードのコネクターは、従来のピン型からロックネジ付の新タイプとなり、従来の数倍の接触面積を持っています。また、全端子に肉厚金メッキを施し音質の劣化を防いでいます。

各部の名称



第1図 各部の名称



第2図 トーンアーム各部の名称

組み立てる前に

本機は、段ボールカートンが2個で1組となっております。それぞれのカートンを開けましたら、組み立てる前に、前頁の“各部の名称”と下記の一覧を参照しながら、各部品が全部揃っていることをお調べください。また、組み立て順序は6頁の順に従っておこなってください。

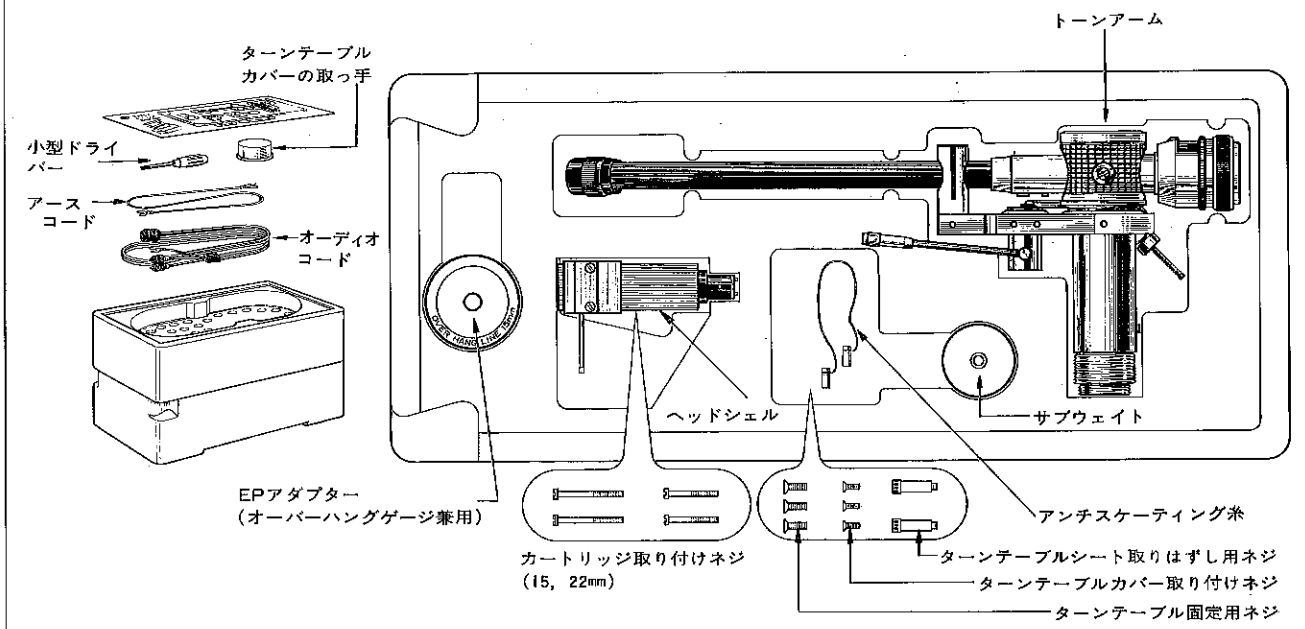
●カートン1 フォノモーターとターンテーブルベース

- ターンテーブル本体
- ターンテーブル
- ターンテーブルシート
- ターンテーブルカバー本体
- ダスタークロス

●カートン2 コントロールユニットとトーンアーム

- コントロールユニット
- オーディオコード

- アースコード
 - ターンテーブルカバーの取っ手
 - 小型ドライバー
 - トーンアーム
 - サブウェイト
 - ヘッドシェル (ヘッドシェル本体+フィンガー+取り付けネジ【10mm 2本】+ワッシャー 2個+ナット 2個, 取り付けネジ【15, 22mm各 2本】)
 - アンチスケイティング糸
 - EPアダプター (オーバーハングゲージ兼用)
 - ターンテーブル固定用ネジ (3本)
 - ターンテーブルシート取りはずし用ネジ (2本)
 - ターンテーブルカバー取り付けネジ (3本)
- そのほかに、取扱説明書が入っているポリ袋の中に、**アブソーバー 4個**とシリコンクロスが入っています。



第3図 トーンアーム関係部品の包装構成

●設置場所について

本機の性能を十分に、また安定した状態で発揮させるために、つぎのことにご注意ください。特に本機は、総重量が37kgと大変に重いため、設置場所については念入りなご注意をお願いいたします。

- ① 水平で外部からの振動が少ない、安定した場所に設置してください。
- ② 直射日光のあたる場所、暖房器具の近くなど、発熱物の近くは避けてください。
- ③ 極端に寒い (5℃以下) 場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

- ④ ホコリや湿気の多い場所、通風の悪い場所は避けてください。
- ⑤ スピーカーからの音圧を避けるため、スピーカーボックスからはできるだけ離してください。

●電源周波数について

本機は直流モーター使用ですので、電源周波数に影響されず、50、60ヘルツ地域どちらでもそのままご使用になれます。

組み立て順序

①組み立ての前に

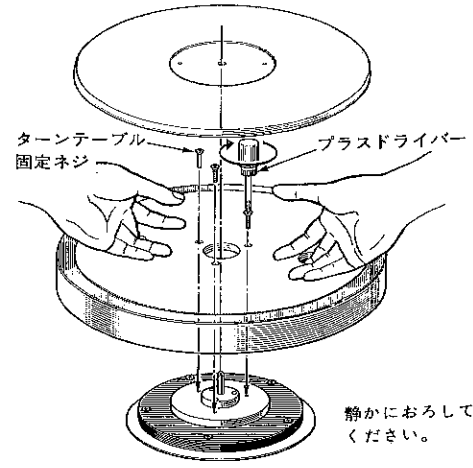
本機はプレーヤー本体の重量が、33kgと大変重いため移動がなかなか困難です。設置場所に設置するまでに、以下の②～④項については、作業のやりやすい適当な組み立て場所にて行い、そのあとで設置場所へ運ぶようにしてください。

②プレーヤー本体の取り出し

まず何もつけない状態でプレーヤー本体を組み立て場所に置いてください。このとき4個の高さ調整装置は段ボールカートンより取り出したままの状態にしておいてください。

③ターンテーブルの取り付け

第4図のように、付属のターンテーブル固定ネジ3本によってターンテーブルを固定します。その上にターンテーブルシートを静かに装着してください。

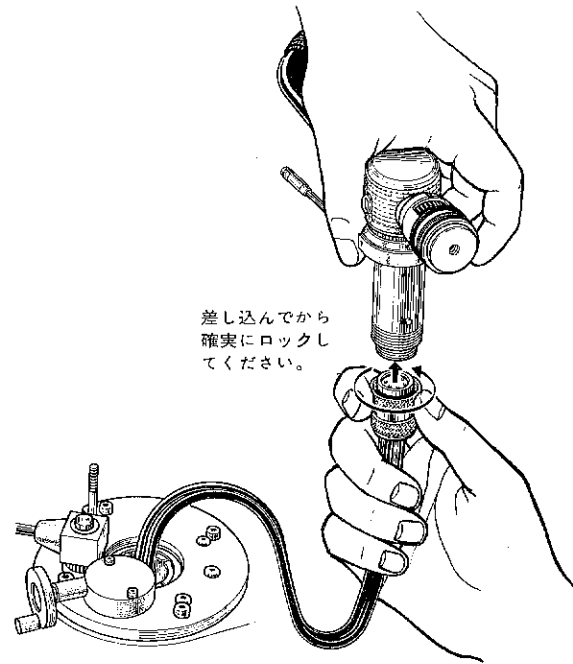


第4図

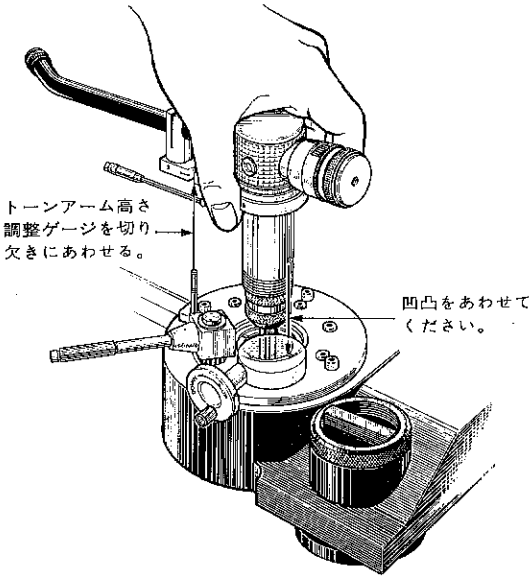
④トーンアームの取り付け

1. 付属のオーディオコードをアームベースの穴に通してからトーンアームに接続します。オーディオコードのコネクター部はネジロック式になっておりますので、ネジをまわして確実にロックしてください。(第5図)
2. アームの高さ調整ゲージとアームレストサポートの切り欠きを第6図のように合わせて、静かにトーンアームをアームベースに差し込みます。そして高さ調整ハンドルをDOWN方向(左回し)に4～5回回転させますと、高さ調整ギヤーとかみ合います(第7図)。アームの高さ調整とアームのロックは、ご使用になるカートリッジの取り付け後に調整してください。(8頁参照)

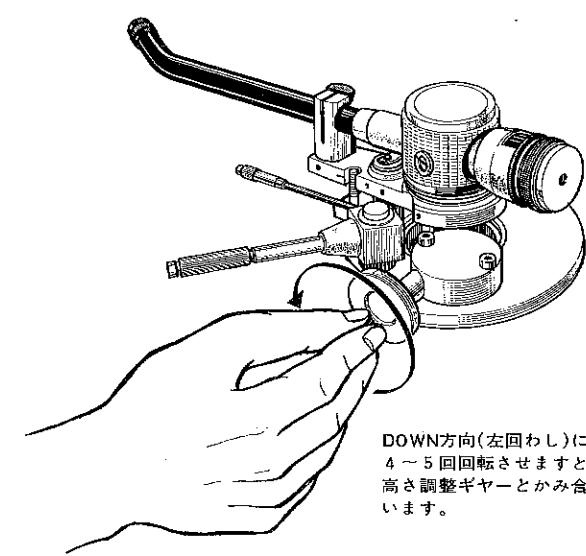
- 注：1) トーンアーム高さ調整ハンドルは一回転で約0.1mm上昇または下降いたします。
2) トーンアームをロックしてからプレーヤー本体を移動させますと、トーンアームの支点部を痛めますのでご注意ください。



第5図



第6図



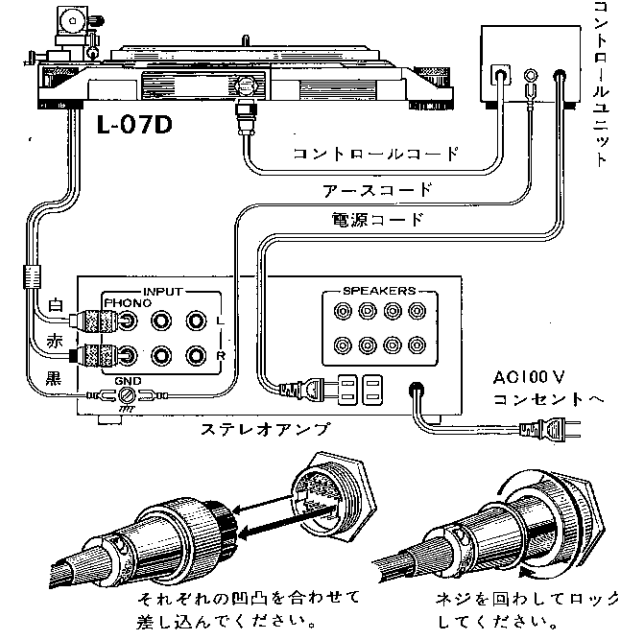
第7図

⑤プレーヤーの設置

プレーヤー本体とコントロールユニットを設置場所に置いてください。設置場所については5頁を参照してください。なおこのとき、輸送時トーンアーム固定バンド(ビニタイ)をはずさないようにしてください。

⑥電源コード、コントロールコード、オーディオコードの接続

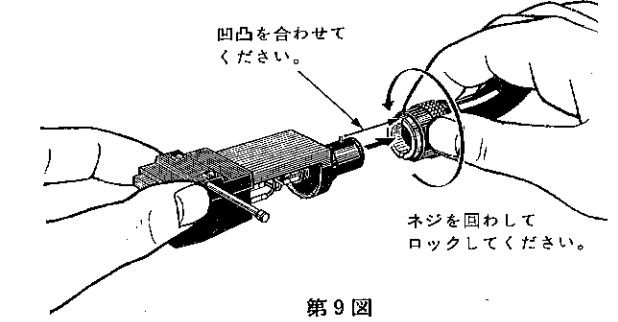
- コントロールユニットと、接続するアンプの電源スイッチがすべて“OFF”の状態であることを確認してから、次の順序で各コード類を接続してください。
1. コントロールコードをプレーヤー本体背面のコネクター端子に差し込みます。このコネクター部は第8図の拡大図のとおり、大きさの異なる2つの凹凸がありますので、それぞれの向きに合わせて正しく差し込んでください。このコネクター部もネジロック式ですので、差し込んでからネジをまわし確実にロックしてください。
 2. 付属のアースコードを、コントロールユニットのGND端子とアンプ側のGND端子またはE端子と接続します。
 3. オーディオコードをアンプ側のPHONO端子に、アースコードはやはりGND端子またはE端子に接続します。
 4. コントロールユニットの電源コードを家庭用コンセント、またはアンプのACアウトレットに接続します。



第8図

⑦プラグインヘッドの取り付け

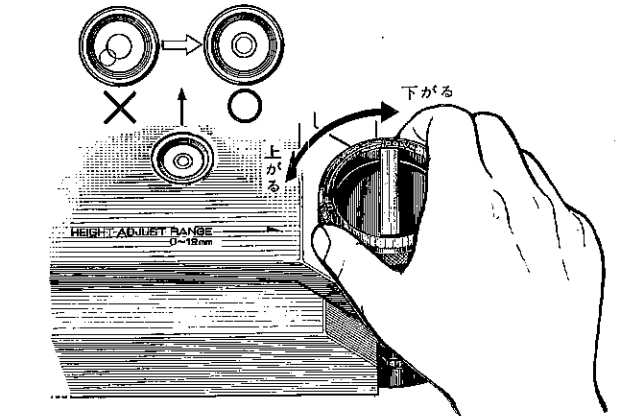
カートリッジを取り付けたあと、下図のようにしっかりと締めつけてください。



第9図

⑧セットの水平調整

水準器を見ながら、セットが水平になるように4個の高さ調整装置で高さの調整をしてください。



第10図

トーンアーム関係の調整

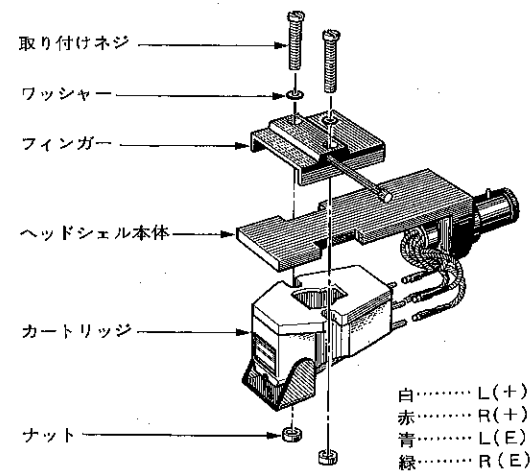
カートリッジの取り付け方

●本機はカートリッジを付属していませんので、お好きなカートリッジをお買い求めのうえ、つぎの要領で取り付けてください。

●EIA規格に準じたヘッドシェルであれば、本機にそのままご使用になれますが、音質の点でも良く考慮されたものをお選びください。

別売ボロンヘッドシェル HS-07J

●カートリッジ、ヘッドシェルの重量は製品によって様々に異なります。本機の場合は、カートリッジとヘッドシェルの重量合計が13～34グラムのものまで使用できます。



第11図

●取付ネジは、3種類 (10, 15, 22mm) のものが付属されていますので適当な長さのものを選んでご使用ください。

●オーバーハングの調整をしやすいために、取り付けネジは、軽く締めておいてください。

●低出力のMCカートリッジやその他の特殊なカートリッジをお使いになる場合、アンプとの接続についてはそのカートリッジの取扱説明書をお読みください。

●注意：プラグインヘッドの着脱は、トーンアームをアームレストに差し込んで、アンプの出力を0にしておくか電源スイッチを“OFF”にしてから行ってください。また、トーンアームに無理な力を加えないようにご注意ください。

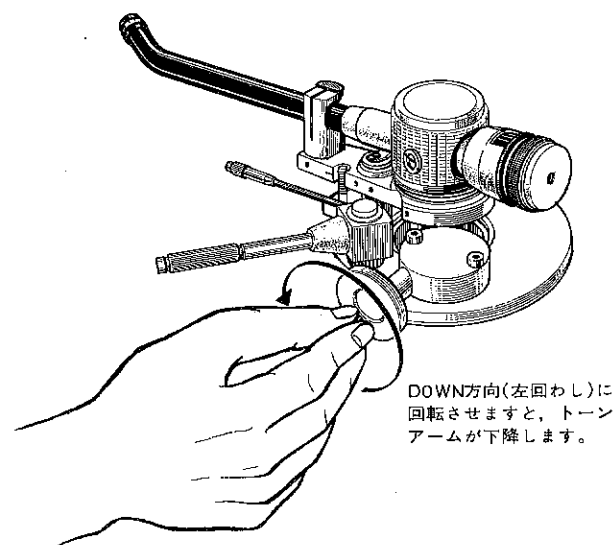
① トーンアームの高さ調整

1. すべての電源スイッチが“OFF”の状態であることを確認してから、ターンテーブルにレコード盤をのせます。

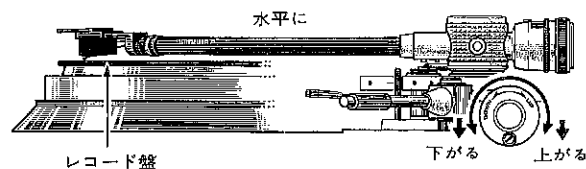
2. カートリッジ交換等によるトーンアームの高さ再調整のときには、トーンアームがロックされていないことを確認します。(ロックレバーの操作については後述の4を参照してください。)

3. レコード盤に針をのせたとき、トーンアームが水平となるようにトーンアーム高さ調整ハンドルを回して高さを調整します。

注：トーンアーム高さ調整ハンドルは1回転で約0.1mm上昇または下降します。



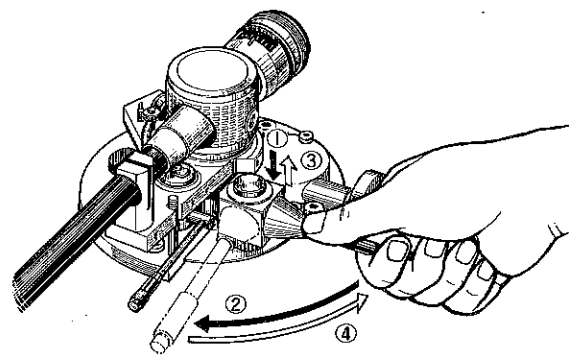
第12図



第13図

4. 高さ調整後、次の要領でトーンアームをロックしてください。(第14図)

①ロックレバー全体を押し下げてギヤーをかみ合わせます。②ロックレバーを押し下げたままの状態の手前(黒矢印方向)に引きします。③押す手をゆるめレバーが上がった状態になってから、④ロックレバーを戻します。これらの操作を3～4回繰り返しますとロックがかかりレバーが動かなくなります。これによりトーンアームが、ターンテーブルベースにしっかりと固定されました。



第14図

なお、ロックをはずす時には、ロックする時とほぼ同要領により、ロックレバーを押し上げた状態で手前より後方に戻しますとギヤーが反対方向に動き、この操作を3～4回繰り返しますとロックがはずれます。

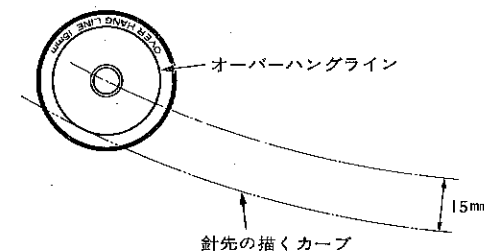
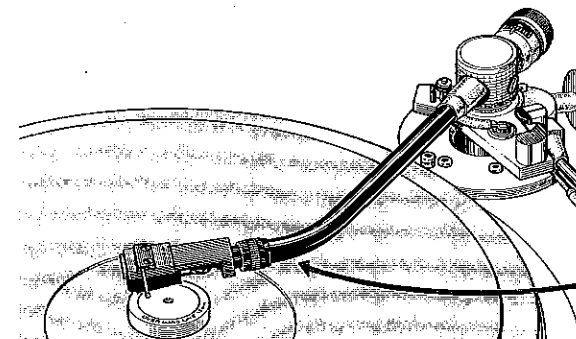
注：1) ロックがかかっている状態で、高さ調整用ハンドルは回わさないでください。無理に回わしますとメカニズムを痛めます。

2) アーム高さ調整ゲージには1mm間隔で赤・黒の線が刻印されています。カートリッジ交換等の際の目安としてご利用ください。

② オーバーハングの調整

●付属のEP盤アダプターをターンテーブル軸に差し込み、針先がオーバーハングライン上にくるように、カートリッジをヘッドシェルに対してスライドさせて調整します。調整後、プラグインヘッドをトーンアームからはずして、カートリッジをそのまましっかりと締め付けます。

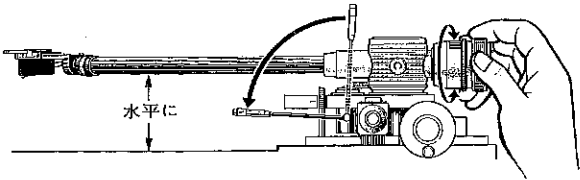
●本機のトーンアームのオーバーハングは15mmです。



第15図

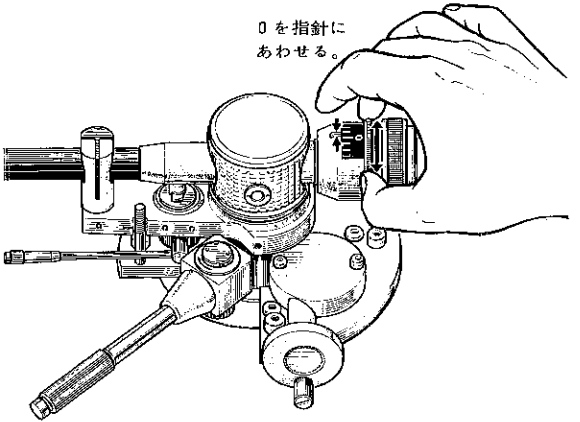
針圧調整のしかた

- ① トーンアームをアームレストからはずし、エレベーションレバーを倒します。
- トーンアームが水平にバランスするようにメインウェイトを回わして調整します。



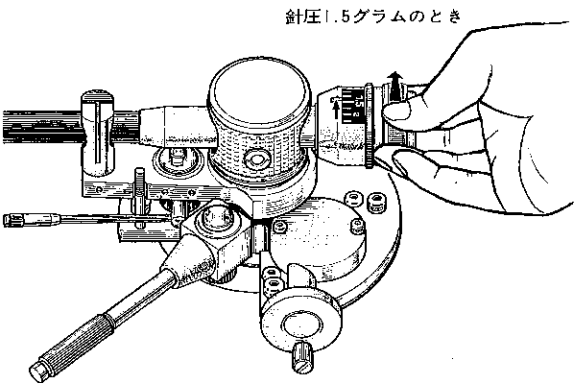
第16図

- ② トーンアームをアームレストにもどしてから、カウンターリングのみを回わして“0”を指針に合わせます。



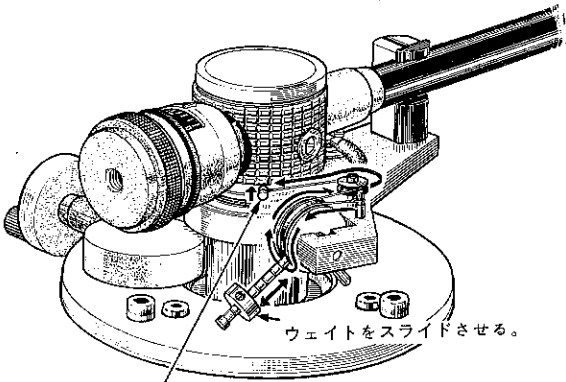
第17図

- ③ つぎにメインウェイトを右に回わして、ご使用のカートリッジの適正針圧と同じ値に合わせます。

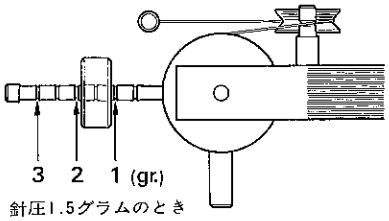


第18図

- ④ アンチスキッピング機構をご使用になる場合は、次の要領にてセッティングを行ってください。
1. アンチスキッピングウェイトをスライドさせ、針圧値に合わせます。
 2. 下図の手順に従ってアンチスキッピング糸をかけてください。

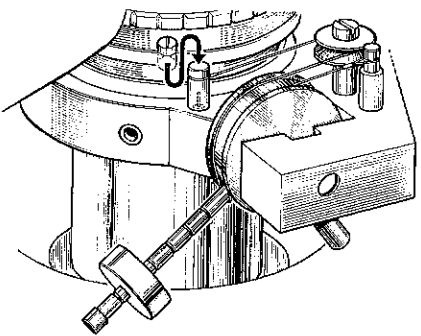


ミニキャップをピボットピンに差し込む。



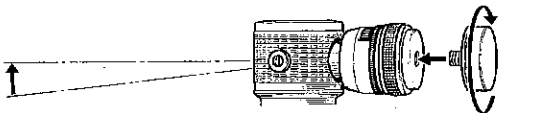
第19図

3. 針圧再調整時やアンチスキッピング機構をご使用にならない時は、第20図のようにミニキャップをリフターベース上のピンに差し込んでおいてください。



第20図

- プラグインヘッド（カートリッジ+ヘッドシェル）の重量が21gを超える場合（本機付属のヘッドシェルをご使用の際はカートリッジ重量が9g以上）には、第21図のようにサブウェイトをメインウェイトの後ろに取り付けて針圧調整を行ってください。この場合の針圧値は、カウンターダイアルの青い刻印の表示値となります。なお、その際表示値以外の針圧値は、下記の換算表に従ってご使用になるカートリッジの適正針圧に合わせてください。



第21図

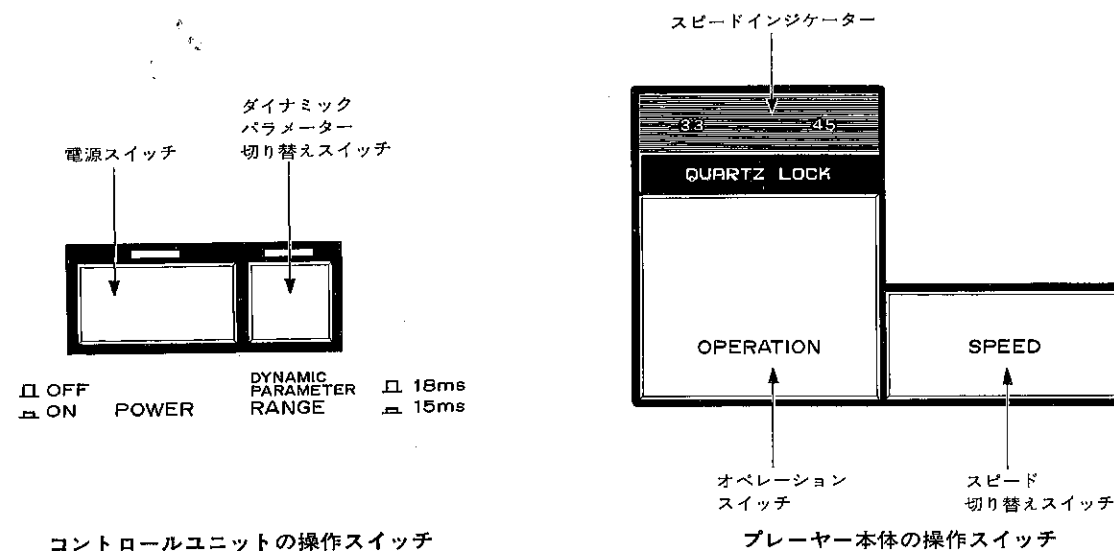
表1 サブウェイト付加時の針圧値換算表

カウンターダイアルの表示値	0	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	0 (2.0)
実際の針圧値	0	0.25	0.5	0.75	1.0	1.25	1.5	1.75	2.0	2.25	2.5

単位：g

レコード演奏のしかた

- ① 針圧調整、コントロールユニットとプレーヤー本体との接続、アンプとの接続およびアンプ側の各ツマミ類の位置が適当か確認してください。
- ② コントロールユニットの電源スイッチを入れます。電源スイッチの上の赤色LEDが点灯します。
- ③ 当社のツイン・ディスク・スタビライザー (DS-20) を合わせてご使用になるときは、ダイナミックパラメーター切り替えスイッチを押してください。ダイナミックパラメーター切り替えスイッチの上の赤色LEDが点灯し、ダイナミックパラメーターが18msより15msに切り替わったことを示します。
注：市販の内周スタビライザーのみをご使用になるときは、またはスタビライザーをご使用にならないときは、ダイナミックパラメーター切り替えスイッチは押さないでください。
- ④ レコード盤をターンテーブルにのせます。EPレコード (ドーナツ盤) の場合には、付属のEPアダプターをご使用ください。
- ⑤ 45回転のレコードの場合には、スピード切り替えスイッチを押します。
回転数は電源スイッチをONさせたときには、まず33 $\frac{1}{3}$ 回転で、あとはスピード切り替えスイッチを押すたびに、45回転と33 $\frac{1}{3}$ 回転と交互に切り替わります。どちらの回転数なのかはスピードインジケータの表示でわかります。
- ⑥ オペレーションスイッチを押します。ターンテーブルが回転し、スピードインジケータの文字表示が赤色より緑色に変わります。これはクォーツロックが動き定常回転になったことを示しています。



第22図

- ⑦ エレベーションレバーを起し、針先をレコード盤のスタート点まで移動させます。
- ⑧ 次にエレベーションレバーを静かに倒してください。静かに針先は降下し演奏が始まります。
- ⑨ 演奏が終わったとき、または途中でやめたいときにはエレベーションレバーを静かに起こしてください。静かに針先が上昇します。
- ⑩ トーンアームをアームレストにもどしてください。
- ⑪ オペレーションスイッチを押し、ターンテーブルの回転を止めてください。
- ⑫ 最後にコントロールユニットの電源スイッチを切ってください。

解説：ダイナミックパラメータースイッチの切り替えについて

プレーヤーの駆動モーターは、いかなる状態においても定常駆動状態を維持する必要があります。本機の駆動モーターのダイナミック・コンペンセイテッド制御回路には、どの様なターンテーブルの状態においても、完璧にダイナミック・コンペンサイト動作を行うための、回路系の補償動作点の切り替えを行う画期的な制御回路が採用されています。当社では音質向上に著しい効果をもたらすツインディスクスタビライザー (DS-20, ¥28,000) のご使用をお勧めしておりますが、これを使用いたしますと、ターンテーブル系の総重量および慣性モーメントの絶対値が増大し、システムの f_0 が変化します。DS-20をご使用の場合には、コントロールユニットのダイナミックパラメーター切り替えスイッチをON状態 (15ms) にて、また通常時はOFF状態 (18ms) にてご使用ください。

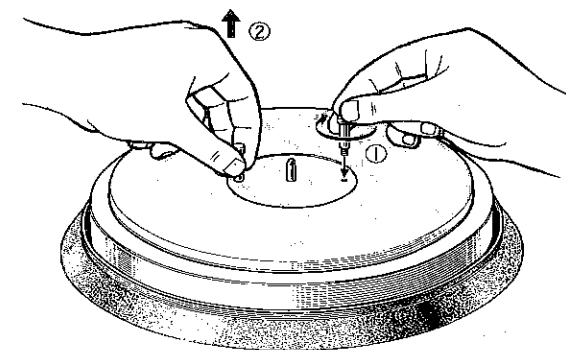
取扱上のご注意

- 本機は電子ブレーキとメカニカルブレーキの双方を併用しています。電源スイッチを入れ、オペレーションスイッチが“OFF”状態のとき (ターンテーブルが停止状態のとき) は、メカニカルブレーキが作動状態です。このときにターンテーブルを手で回わしますと、メカニカルブレーキが働き若干抵抗が感じられますが、これは異常ではありません。しかし、それ以上に強く回わしますと、メカニカルブレーキを痛めますので避けてください。
- ターンテーブルをフォノモーターに固定する前に、モーターを回転させないでください。負荷がまったくかからない状態で、フォノモーターを回転させますとモーター内部を著しく痛めます。
- ターンテーブルをフォノモーターに固定するとき、または取りはずすときは、すべての電源スイッチが“OFF”状態であることを確認してから行ってください。電源“ON”状態で行いますと、メカニカルブレーキが作動状態のままで行うことになり、メカニカルブレーキを痛めますので避けてください。
- ターンテーブルが回転中に電源を切りますと、電子ブレーキ、メカニカルブレーキともに動作いたしませんので、停止状態になるまでにかなりの時間を要します。

- 本機の諸特性は、付属のターンテーブルシートまたは別売オプションのセラミックターンテーブルシート TS-10 (¥26,000) をのせた状態において保証されています。それらをゴムシート等に取り替えますと、諸特性が低下したり、クォーツロックがかからない場合がありますのでおすすめできません。

注：付属のターンテーブルシートを取りはずすときは、付属のターンテーブルシート取りはずし用ネジを、下図のように差し込んでお取りはずしてください。

なお、このネジは紛失しないようにしてください。



第23図

サブアームの取り付けについて

- 本機にはサブアームを取り付けるためのサブアームスペースが設けられています。このスペースには、市販の実効長210~245mmのトーンアームを取り付けることができます。この際には、それぞれに適合したサブアームベースが必要となりますので、購入店または最寄りのトリオ商事各営業所、サービスセンターにご相談ください。また取り付け方法は、それぞれのトーンアームの取扱説明書によってください。

なお、このサブアームスペースはスペースカバーで被われておりますので、ご使用の際はそれを取りはずしてからお取り付けください。(別売のボロンヘッドシェル、サブアームベースは近日発売の予定です。)

保守について

●演奏が終わったら

カートリッジは針先保護のために針カバーのあるものはそれをしてください。またターンテーブルおよびシステム全体のホコリ防止のためにも、付属のターンテーブルカバーとダスタークロスをかけてください。
注：ターンテーブルカバーは、付属のφ3mm・長さ8mmのターンテーブルカバー取り付けネジ3本により、アクリル製の本体に取っ手を固定してからお使いください。

●セットの清掃

ケース、カバーなどの清掃は乾いた布または付属のシリコンクロスで軽くふいてください。特に汚れがひどいときは、電源プラグをコンセントよりぬいてから、石けん水にひたした布をかたくしぼってふいてください。シンナーやアルコールなど揮発性液体でのお手入れは絶対に避けてください。

●注油について

本機のモーターは注油の必要はありません。

●セットを運ぶときのご注意

転居などで、セットを運搬なさるときには、購入時の包装材で正しく包装してください。包装材がないときでも、ターンテーブル、ターンテーブルシート、トーンアーム、プラグインヘッド（シェル+カートリッジ）は必ず取りはずして、別梱包のうえ運んでください。

●定期点検のおすすめ

ふつう機械類を長い間、手入れせずに使用するとどうしても摩耗、劣化等により何らかの故障が起こりやすくなります。
本機を長持ちさせ、安定した状態でご使用いただくために、できれば2年おき位に故障がなくても、定期点検をお受けになるようおすすめします。定期点検は購入店または最寄りのトリオ商事各営業所、サービス・センターにご依頼ください。

故障？
再チェックしてください。

ハム(ブーンという音)が出る

- オーディオコードとアース線がそれぞれプレーヤーおよびアンプに完全に接続されているか再度確認してください。
- プラグインヘッドの取り付けは完全ですか。
- オーディオコードの位置を変えてみてください。
- 電源コードの差込みを逆にしてみてください。

ハウリングが起きる

- 本機は設置場所がしっかりしている場合において、ハウリングが起きることはまずありませんが、外部からの振動が激しく、それが床面等に伝わってくるような状態の場合には、若干低域が濁る（ボワーンという感じとなる）ことも考えられます。そのようなときには、添付のアブソーバーを高さ調整装置脚部の下に敷いてください。

定 格

〔フォノモーター部〕

駆 動 方 式	ダイレクト・ドライブ
モ ー タ ー	クォーツPLL DCスロットレスサーボモーター
最 大 ト ル ク	2.5kg・cm(電子ブレーキ内蔵)
タ ー ン テ ー ブ ル	33cm, 5.5kg (アルミダイカスト+ジュラルミン複合構造、非磁性ステンレスターンテーブルシートを含む)
回 転 数	33⅓, 45r.p.m.
ワ ウ ・ フ ラ ッ タ ー	0.016%(W.R.M.S.) 0.01%(ロータリーエンコーダー) 0.004%(FG直読法)
S / N 比	94dB(DIN-B), 65dB(JIS)
慣 性 モ ー メ ン ト	1.025kg・cm ² (ターンテーブルシート含む)
定 常 負 荷 特 性	0% (針圧120gまで)
温 度 ド リ フ ト	0% (測定限界値以下)
時 間 ド リ フ ト	0% (測定限界値以下)
トランジェント負荷特性	0.00015%以下 (33⅓r.p.m., 400Hz, 20g・cm負荷時) 0.00008%以下 (33⅓r.p.m., 1kHz, 20g・cm負荷時)
ス タ ー ト 時 間	2.5秒以内
ス ト ッ プ 時 間	2.5秒以内
ダイナミックパラメータ ーレンジ切り替え	18ms, 15ms

〔トーンアーム部〕

型 式	スタティックバランスJ字型パイプアーム・ユニバーサルタイプ(EIAプラグイン)
ト ー ン ア ー ム 重 量	0.8kg
コレットチャック重量	1.5kg
総 重 量	2.3kg
ア ー ム 実 効 長	245mm
オ ー バ ー ハ ン グ	15mm

トラッキングエラー	+2°26' (150mm) ~ -1°11' (85mm) ~ +1°48' (50mm)
針 圧 可 変 範 囲	0 ~ 2 g (0.05 g ステップ)
適用カートリッジ重量	1 ~ 9 g (付属シェル12 g 使用時) 9 ~ 22 g (付属シェル12 g およびサブウェイト使用時)
適用プラグインヘッド総重量 (シェル付カートリッジなど)	13 ~ 22 g 22 ~ 34 g (サブウェイト使用時)
付 属 シ ェ ル	ポロン、カーボンファイバー積層ヘッドシェル (ユニ・コンタクト・ポイント・リード) 【重量：12 g】

〔総 合〕

電 源	AC100V, 50/60Hz
消 費 電 力	10W
寸 法(本体)	555(W)×160(H)×470(D)mm
寸法(コントロールユニット)	130(W)×110(H)×356(D)mm
重 量(本体)	33.0kg
重量(コントロールユニット)	4.1kg
付 属 機 構	標準14インチ用サブアームスペースギヤーロック式コレットチャックアームベース ヘリコイド方式アーム高さ調整機構(7mm可変, 0.1mmステップ, 調整ゲージ付) ムーブメントブロックシステム・アンチスケイティング機構 オイルダンブ式アームエレベーション機構 上面操作高さ調整機構(12mm可変)水準器
付 属 品	サブウェイト EPアダプター(オーバーハングゲージ兼用) ターンテーブルカバー ダスタークロス 小型ドライバー ターンテーブルシート取りはずし用ネジ シリコンクロス アブソーバー

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い、予告なく変更になることがあります。